

INDEX

P.1

・「PRIDE指標2023」2年連続ゴールド認定獲得
・「LGBTQ+学生への配慮・対応ガイド（教職員向け）」第6版を発行しました

P.2

・ボリス・学生交流公開講座「共生社会の実現にむけて～障がい者のはたらく場から考える～」
・2023年度 男女共同参画・ダイバーシティの推進プロジェクト講演会「トランスジェンダー女性問題から見える法と社会－経済産業省職員事件から考える－」
・ダイバーシティ関連イベントを多数実施
・ダイバーシティ関連科目を多数開講

P.3

・「早稲田大学のダイバーシティ推進に関する意識・実態アンケート」を実施
・「早稲田大学障がい学生支援に関する基本方針」改正および障がい学生支援室の名称変更
・2023年度活動報告

P.4

・連載 ワークライフバランス挑戦中! ②
育児と仕事、葛藤を乗り越えて
・学内バリアフリー対応最新情報!
・「早稲田大学ダイバーシティ推進室パンフレット」2023年10月改訂

Topics

「PRIDE指標2023」2年連続ゴールド認定獲得

2023年11月7日、本学のLGBTQ+に関する取組みが、一般社団法人「work with Pride」が策定する職場におけるLGBTQ+に関する取組みの評価指標「PRIDE指標2023」において、「ゴールド認定」を獲得しました。

本学では2017年に「早稲田大学ダイバーシティ推進宣言」において、「性別、障がい、性的指向・性自認、国籍、エスニシティ、信条、年齢などにかかわらず、本学の構成員の誰もが、尊厳と多様な価値観や生き方を尊重され、各自の個性と能力を十分に発揮できる環境」の実現を目指すことを宣言し、数々の課題に取り組んできました。

具体的には、「だれでもトイレ」の設置、性別情報の収集・記載に関する検証・見直し、両立支援、人事諸制度における事実上婚姻と同様の事情にあるパートナーへの制度適用、教職員向け研修・公開講演会を実施するなど、継続的かつ着実にその歩みを進めています。

この結果として、「PRIDE指標2022」において初めて「ゴールド認定」を獲得し、認定の項目・審査ポイントがアップグレードされ、実質的に認定基準が厳しくなった翌年の「PRIDE指標2023」においても、「ゴールド認定」を獲得、2年連続での受賞となりました。

今後も本学では、性的指向や性自認にかかわらず、多様な人々が共に協働することができる環境の実現を目指し、社会の発展に資するため、ダイバーシティの尊重・推進に努めてまいります。



▲授賞式会場にて表彰状を手に（ダイバーシティ推進室長 石田京子法学学術院教授）

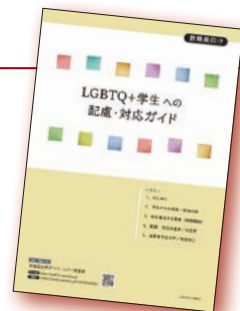
PRIDE指標とは：

2016年に任意団体（2023年より一般社団法人化）「work with Pride」によって初めて策定された、職場におけるLGBTQ+に関する取組みに対する評価指標のこと。

Policy：行動宣言、**Representation**：当事者コミュニティ、**Inspiration**：啓発活動、**Development**：人事制度・プログラム、**Engagement/Empowerment**：社会貢献・渉外活動 の5つの指標に対して、それぞれ複数の評価項目が設定され、所定の基準を満たすことにより1点ずつ加算される。5点（満点）でゴールド、4点でシルバー、3点でブロンズと認定される。

「LGBTQ+学生への配慮・対応ガイド（教職員向け）」第6版を発行しました

多様な学生が安心して学業・大学生活に専念できるよう、ジェンダー・セクシュアリティに関する理解を深め、当事者の気持ちに寄り添い、適切な対応を行うために「LGBTQ+学生への配慮・対応ガイド」を教職員向けに発行しています。2024年3月、第6版を発行し2024年度の授業開始に向け全教職員に配付します。（詳細は <https://www.waseda.jp/inst/diversity/support/sexual-minority/> よりご覧いただけます）
内容に関するご意見等は、ダイバーシティ推進室までご連絡ください。



Report

ポラリス・学生交流公開講座 「共生社会の実現にむけて～障がい者のはたらく場から考える～」

2023年12月15日、本学の特例子会社^(注)である株式会社早稲田大学ポラリスの社員5名をゲストスピーカーに、社会科学総合学術院の寺尾範野准教授（「比較近代社会思想2」担当）をファシリテーターに招き、標記の公開講座をオンラインにて開催し、本学学生70名が参加しました。

同社伴マネージャーによる事業概要説明および仕事の様子の動画視聴の後、障がいのある社員から、適性や能力を活かした業務内容や取り組み

姿勢、就労に至る経緯や日常生活等が語られました。参加学生との間で質疑応答が活発に行われ、障がいのある人々と築く共生社会のあり方を、身近なこととして考える機会となりました。

(注) 障がい者の雇用促進および安定就労を目的として事業主（大学）が設立した子会社



▲公開講座の様子（上段左よりポラリス社員の皆さん、伴マネージャー、寺尾範野准教授（社会科学総合学術院）、鈴木さん）



▲会場のポラリス社員の皆さん

Webサイトで詳しく



Report

2023年度 男女共同参画・ダイバーシティの推進プロジェクト講演会 「トランスジェンダー女性問題から見える法と社会 ー経済産業省職員事件から考えるー」

2023年12月7日、経済産業省職員事件の原告代理人弁護士である立石結夏氏をお招きし、石田京子ダイバーシティ推進室長（法学学術院教授）による司会のもと、標記の公開講演会を開催し、学内外から200名を超える参加がありました。

講演では、経済産業省職員事件の内容を中心に性暴力論、ルッキズム、差別・偏見等についてお話いただき、トランスジェンダーを取り巻く環境・問題はじつはすべてのジェンダーの人に関わる問題であり、根底にはこの国に存在する「ジェンダー不平等」の現実があることを立石氏の思いを交えながら分かりやすく紐解いていただきました。このテーマに対する強い関心と熱量の高さをうかが

わせる数多くの質問、感想が寄せられ、参加者全員が大変有意義な時間を共有することができました。



▲思いを交え熱く語りかける立石結夏氏



▲会場の様子

Webサイトで詳しく



Topics

ダイバーシティ関連イベントを多数実施

本学はダイバーシティ推進室とスチューデントダイバーシティセンター（SDC）が連携し、全学的な視野でダイバーシティの実現に取り組んでいます。その一環として「学生・教職員等のダイバーシティ推進に対する全学的な意識向上」を目的にさまざまな講演会、セミナー、

交流会等の各種イベントを開催しています。ダイバーシティ推進室Webサイトに学内イベント情報を集約し紹介していますので、ぜひ参考にしてください。

Webサイトで詳しく



Topics

ダイバーシティ関連科目を多数開講

ダイバーシティの本質を深く学ぶ機会を学生に提供するための推奨オープン科目の一覧を「ダイバーシティ関連科目」としてダイバーシティ推進室Webサイトにおいて科目リストと検索キーワードを紹介しています。

ダイバーシティへの理解を深める科目で、オープン科目として開講している科目をダイバーシティ推進室にご紹介ください（自薦、他薦は問いません）。ダイバーシティ推進室Webサイト上の「ダイバーシティ関連科目」に掲載し、MyWaseda等にて広報させていただきます。

Webサイトで詳しく



Topics

「早稲田大学のダイバーシティ推進に関する意識・実態アンケート」を実施

2023年11月に教職員を対象に「早稲田大学のダイバーシティ推進に関する意識・実態アンケート」を実施しました。

アンケート対象数が全体で3,371名、教員2,206名、職員1,165名に対して、有効回答率は全体で35.5% (1,198票)、教員28.7% (633票)、職員48.5% (565票) という結果になりました。お忙しい時期に

もかかわらずご協力いただきました皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

アンケートの結果は報告書にまとめたうえで、ダイバーシティ推進室Webサイトに公表予定です。

Topics

「早稲田大学障がい学生支援に関する基本方針」改正および障がい学生支援室の名称変更

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の改正が、2024年4月1日に施行されることが決定し、合理的配慮の提供が義務化されることにあわせ、2023年12月1日に「早稲田大学障がい学生支援に関する基本方針」を改正しました。

また、スチューデントダイバーシティセンターにおける障がい学生支援業務を担う機能の対外名称を2023年12月1日より「アクセシビリティ支援センター/Accessibility Resource Center (ARC)」に変更しました。アクセシビリティ支援センターは、本学における修学上の合理的配慮の円滑な実施に必要な調整およびリソースの提供を行うほか、障がいについての理解を広める取組みを通じて学びへの参加（「アクセシビリティ」の確保）を支援します。

2024年度の授業開始に向け「障がい学生支援のための教員ガイド」

等、修学上の合理的配慮実施に際して必要な情報を更新していきます。詳細はアクセシビリティ支援センターWebサイトをご覧ください。



Webサイトで詳しく



2023年度活動報告

氏名は50音順、◎委員長 ○副委員長 ◆部会長 ◇副部会長
(掲載の委員・部会委員は2024年1月22日現在)

ダイバーシティ推進委員会

2023年9月21日、篠原初枝理事が担当理事として新たに就任しました。

LGBTQ+に関する取組みを着実に進めた結果、2年連続「PRIDE指標2023」の「ゴールド認定」を獲得しました。また、常勤の教職員を対象に「早稲田大学のダイバーシティ推進に関する意識・実態アンケート」を実施。その結果を公表しました。

委員 秋葉志志 (スチューデントダイバーシティセンター長/国際学術院准教授)・東玲奈 (国際学術院准教授)・天野紀明 (理事 (職員人事、労務))・◎石田京子 (法学学術院教授)・エルウッド ケイト (国際部長/商学学術院教授)・大坪恭子 (人事部長)・大場浩之 (教務部長/法学学術院教授)・岡崎成光 (レジデンスセンター課長兼スチューデントダイバーシティセンタージェンダー・セクシュアリティ担当課長)・草柳千早 (文学学術院教授)・久保山尚英 (人事部業務構造改革担当課長兼調査役 (ダイバーシティ推進担当))・佐久間由梨 (教育・総合科学学術院教授)・篠原初枝 (理事 (ダイバーシティ推進、国際広報、国際学生寮 WISH) /国際学術院教授)・◇地主成美 (スチューデントダイバーシティセンター障がい学生支援担当課長)・城座俊輔 (学生部学生生活課長兼スチューデントダイバーシティセンター課長)・菅野重樹 (理工学術院長/理工学術院教授)・高松寿夫 (文学学術院長/文学学術院教授)・○谷口真美 (商学学術院教授)・玉田正樹 (留学センター事務長)・藤本浩志 (人間科学学術院教授)・松岡宏高 (スポーツ科学学術院長/スポーツ科学学術院教授)・三浦暁 (総務部長)・矢内義親 (学生部長/商学学術院教授)・横山将義 (商学学術院長/商学学術院教授)

教育研修部会

ダイバーシティ関連科目の受講促進に向けた広報強化、GEC 設置科目「ダイバーシティを学ぶ」等の運営、慶應義塾・学術院・SDC・関連会社等との連携によるイベント等を介した教育啓発活動を予定どおり実施できました。ARCとの連携による「障がい学生支援のための教員ガイド」の制作に協力しました。

部会委員 朝日透 (理工学術院教授)・◆東玲奈 (国際学術院准教授)・宇羽野聡 (総務部総務課長)・◇地主成美 (スチューデントダイバーシティセンター障がい学生支援担当課長)・杉森絵里子 (人間科学学術院准教授)・高山あかり (理工学術院准教授)・豊田真穂 (文学学術院教授)・野原佳名子 (文化推進部調査役兼演劇博物館事務長)・橋田朋子 (理工学術院教授)・矢口徹也 (教育・総合科学学術院教授)・ローリー ゲイ (法学学術院教授)

制度環境部会

「だれでもトイレ」の案内表示、自動扉化工事や、託児室・授乳室の環境整備を進めました。それらの位置情報はUDマップ (ユニバーサルデザインマップ) にも反映していきます。ベビーシッター派遣事業割引券の配付方法を、現状に即して見直しました。

部会委員 岡崎成光 (レジデンスセンター課長兼スチューデントダイバーシティセンタージェンダー・セクシュアリティ担当課長)・久保山尚英 (人事部業務構造改革担当課長兼調査役 (ダイバーシティ推進担当))・城座俊輔 (学生部学生生活課長兼スチューデントダイバーシティセンター課長)・鈴木理恵子 (法学学術院教授)・陳天璽 (国際学術院教授)・◆藤本浩志 (人間科学学術院教授)・◇松尾亜弓 (総長室長)・村田晶子 (文学学術院教授)

広報調査部会

「さんかくニュース」No.30、31を企画・編集し、発行しました。No.30では、2023年9月にダイバーシティ推進担当理事に就任された篠原初枝理事の挨拶文を掲載し、また慶應義塾大学と共催した「ダイバーシティ・シンポジウム」を報告しました。

部会委員 ◇尾崎慶吾 (グローバルエデュケーションセンター事務長)・◆草柳千早 (文学学術院教授)・小西麻知子 (図書館調査役)・末松大 (国際部国際課職員)・玉田正樹 (留学センター事務長)・山内暁 (商学学術院教授)

育児と仕事、葛藤を乗り越えて

本庄高等学院 教諭 羽田 真

時計は午前6時30分。坊やに声をかける。「まだおきない！」どうやら今日もタフな交渉になりそうだが、時間は限られている。何とか説得しなければ。20分、30分……7時をまわってようやく投降だ。よし、次は朝食をとらせよう。「ウーアーン！」おっと、どうした？「パンがいがい！」しまった、トーストが少し焦げていたようだ。すまない、パパが悪かった。パパのはまだ焼いてないから交換だ。「うん」よかった、納得したようだ。続いてお着替え、歯磨き、検温も済ませなければ。「これはキライ！」クマのトレーナーはお気に召さない模様。「これにする！」そのシャツはちょっと寒そうだが……もう小さくなったし……。しかしご機嫌を損ねたら大変だ。それでいこう。保育園バッグは準備完了。水筒を入れ、連絡帳の記入も済ませた。炊飯器のタイマーをセットしたら出発だ。やった！急げば1限に間に合いそうだ。さて、お靴は自分で履けるかな？「ねえパパ、うんちでる！」

まだまだイヤイヤ期の息子がいる生活は、毎日が綱渡りだ。妻は勤務先が遠く、朝6時前に家を出てしまう。我が家は「ジジババ・ヘルプ」にも頼れず、必然的に平日朝夕のお世話は私のワンオペになる。今までも、土曜保育に延長保育、病児保育、シッター補助などあらゆる支援・制度をなすり付け構わず駆使し、妻とも協力しながら育児と仕事の両立に挑んできた。しかし、息子の急な発熱での欠勤など、職場には迷惑をかけてばかりだ。授業準備もままならない。本は読めない、論文は書けない、出張は行けない。会議、面談、課外活動……。いくら時短や効率化を進めてもやりたい仕事はできず、もどかしさや苛立ちを覚えることも多い。何とかもっと仕事をしたい。

一方で、息子と過ごす時間も足りないのだ。放課後のクラブを1時間早く切り上げて新幹線に駆け込んで、保育園に到着するのは人もまばらな閉園間際。こっちは大急ぎで来たのに「おむかえ、おそかった」



▲職場に近い群馬県神流町の恐竜センターにて。息子のおかげで筆者も恐竜に詳しくなった。



▲箱根彫刻の森美術館の体験型アートを楽しむ。筆者が引率で不在の時、妻が連れ出してくれた。

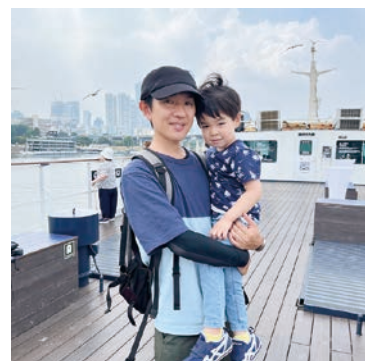
なんて泣かれて心が折れることもしばしばである。とはいえ、子どもの成長には親からのふんだんな愛情が欠かせないことも理解している。一番甘えたい盛りの3歳児が保育園で11時間も頑張った気持ちと思うと、申し訳なく、やるせない。

睡眠時間を削るのも限界。どうしようもない葛藤を繰り返す日々なのである。

それでも、親身になって寄り添ってくださる同僚の先生方や職員の方々に救われている。「ダイバーシティ推進」の看板に倚りなく、本学の皆さんはいつも温かい。「お子さん大丈夫ですか？」「そういうとき、仕事ができなくてつらいですね」と声をかけてもらえることで、どれだけ助かっているか。このありがたさは、当事者になって初めて分かったことだ。

1979年のアメリカ映画『クレイマー、クレイマー』には、育児に仕事と孤軍奮闘する主人公テッドに対し、上司が解任を告げるシーンがある。育児は迷惑なのか、と胸に刺さる。しかし、今やワーク・ライフ・バランスは職場の生産性を向上し、よい仕事を実現するために不可欠であると広く認識されている。育児は膨大な時間的拘束を伴うが、決して仕事とトレード・オフではない。育児中だからといって責任のある仕事から排除されたり、キャリアを奪われたりしないことが組織にとって重要だ。そんなダイバーシティ・マネジメントに気づけたのも、いまの立場に置かれたことの効用である。葛藤を味わってこそ役立てることがある。だからいつか息子が育っても、支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、誰もが力を発揮できる職場環境の創造に尽力したい。

「パパ、だいすき！」と抱きつく息子の笑顔に癒されつつ、今日もまた職場に向かう。



▲夏休みの家族旅行、初めての海外は韓国へ。漢江遊覧船での一コマ。すっかり気に入る年末にも再訪。

■ 略歴：本学法学研究科修士課程修了後、桐蔭学園中等教育学校教諭を経て2009年より現職。担当科目は政治・経済。2023年3月まで教務主任（生徒担当）。中央学院大学法学部非常勤講師、本市市行政不服審査会委員などを兼任。家族は妻（高校教諭）と長男（恐竜好き3歳）。

募集しています！

ワークライフバランスのロールモデルとなるような「自分らしい働き方」に取り組んでいる教職員をご推薦ください（自薦他薦は問いません）。育児に限らず、介護、学び、趣味、ボランティア等、ご自身が仕事以外で力を入れていることをご紹介ください。ぜひダイバーシティ推進室までお知らせください。

INFORMATION

学内バリアフリー対応最新情報！

2024年2月に最新情報を掲載した「早稲田大学UD（ユニバーサルデザイン）マップ」（第8版）を発行し、Webサイトへの掲載、各箇所への配布を行いました。適宜、ご活用ください。

・戸山キャンパス36号館2階「だれでもトイレ」自動扉化

「早稲田大学ダイバーシティ推進室パンフレット」2023年10月改訂

「ダイバーシティ推進宣言」、本学のダイバーシティ推進取組み体制、推進室の活動内容を紹介しています。



編集・発行

早稲田大学ダイバーシティ推進室

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

e-mail: diversity@list.waseda.jp

URL: https://www.waseda.jp/inst/diversity/

Web

